町並み・街づくり

内装木質化

SDGsで木質化加速

デザイン性も向上

木造建築が増えるに従い、構造が木材ならば内装も木材にしたいと考えるのは自然な流れだ。木を好む日本人の気質もあり木質の内装を高く評価する人は多い。またここ数年はSDGsの流れも手伝って、RC造の建物でも内部を木質化するケースが増えてきた。駅の構内などでも地域産材等を利用して内装の木質化を進める動きが顕著になっている。

非住宅系建築物の壁、天井に利用されるツキ板の市場で圧倒的なシェアを持つのが北三（東京都、尾山信一社長）だ。施設系建築物の壁、天井などに使われるツキ板を材料販売するほか、オリジナル商品も開発している。

なかでも「サンフット」は同社の定番商品。特殊ベース材にツキ板を重ね、表面塗装で仕上げた厚さ0・35ミリのシート。ツキ板でありながら不燃認定を取得し、どんな基材にも対応する施工性の高さが特徴だ。

北三の「サンフット」。不燃認定を取得しており、曲面などにも施工できる

下地処理が完了していれば材工でも注文を受ける。

同じく不燃対応の「バンシャット」は、基材のダイライトに0・2ミリのツキ板を張り合わせた不燃パネルだ。そのほか、合板基材のホクサン化粧合板、金属板基材のメタウッドもある。

北三の強みは取り扱っているツキ板樹種の豊富さにある。世界中から銘木を集めるその集材力には定評があり、ツキ板樹種は受注生産分も含めると100以上となる。この商品力をてこに、内装のオリジナル性を求める設計者の多様な要望にも柔軟に対応する。

構造材事業に付随して内装材事業を進める動きもある。キーテック（同、中西宏一社長）の内装用LVL、キーラムインテリアはLVLの単板積層面を表面材にした、ほかにない独特な縞のデザインが特徴だ。リピート客も多い。

躯体にLVLが採用されていれば、内装もLVLにすることでデザインに統一性を持たせることができる。今後、内装用LVLは「バウムクーヘン」のブランドで知名度向上を図りながら販売を強化していく。

キーラムインテリアは樹種は杉、カラ松で、厚みは15、30ミリの2種類。準不燃タイプもある。ツキ板タイプ、厚さ0・28ミリの「キーラムインテリア不燃シート」は曲面加工にも対応が可能だ。

物林（同、淡中克己社長）もオリジナル商材を開発するなどして内装事業に力を入れている。

「登米（とめ）材」は、宮城県登米町森林組合と物林が共同企画した商品。生産は同森林組合が、販売は物林が担っている。物林が製品企画に加わったことで、マーケットインの発想を生かし、需要家に求められる商品を開発した。

製品は宮城県のFSC森林認証材を使用した受注生産式の造作材。品目はムク羽目板や枠、見切り、ルーバーなど。杉、アカ松などの針葉樹のほか、クリやヤマザクラ、ケヤキ、ナラなどの広葉樹もラインアップ。素材供給に難があった国産広葉樹を半加工で原材料ストックし、良品の安定供給を目指している。NPO法人、みなみあいづ森林ネットワークに協力して、南会津産広葉樹を使った壁面装飾材の企画にも加わった。意匠性の高い壁材の販売を進めていく。

このように木質内装の商品拡充が進むことで、意匠性も向上し、それで内装を木質化したいとする人が増えるという良い循環が回りつつある。

木の価値

フヘン（不変・普遍）

変わらず価値として共有されている。
Permanence Universality

木の癒やし効果 科学的に証明

宮崎 良文医学博士
池井 晴美農学博士

宮崎　博士

池井　博士

宮崎良文医学博士は、「木の価値は変わっていない（不変）のではなく、価値が上がっている」と指摘する。宮崎博士は、千葉大学が設ける環境健康フィールド科学センター自然セラピープロジェクトで、池井晴美農学博士とともに、自然がもたらす快適性を「自然セラピー」として科学的に探究している。

宮崎博士は、快適性を「受動的」「能動的」の2つに分類。受動的快適性は暑い、寒いなどの不快を取り除く基本的な欲求であり、個人差は小さい。一方で、五感を介する刺激である能動的快適性は個人差が極めて大きく、測定法も確立していなかった。これが「自然に触れると、体が〝勝手に〟ホッとする。だが、こうした快適性は測れない」（宮崎博士）理由だった。

だが近年は測定機器の進歩により、こうした快適性を科学的に証明することが可能になっている。自然セラピープロジェクトでは「木材セラピー」としてこれらを探求している。

一例が、池井博士が2015年に発表した「木の匂い」による脳活動の変化を捉え、リラックス効果を科学的に明らかにしたものだ。池井博士によれば16年当時、全世界で「木材の快適性」に関する論文は33本発表されていたが、このすべてが日本の研究チームによるもの。とりわけ、「木の匂い」に関する研究が最も多かったという。ちなみに現在、「木材の快適性」に関する発表論文は増加傾向だが、同研究室は6割を占めるという。15年発表の同論文では、桧の香りを90秒間かぎ、脳の活動が鎮静化することを科学的に明らかにした。

さらに、「触覚」から木の快適性に迫った論文（17年）を発表。ナラ、大理石、タイル、ステンレスのそれぞれの素材に手のひらを置き、反応を計測。その結果、木材に触れることで脳と体がともにリラックスしていることを明らかにした。また、同実験を木材の「塗装」「無塗装」「オイル塗装」の場合でも検証（17年）。その結果、無塗装とオイル塗装に触った場合に副交感神経の活動が活発になり、リラックス状態にあることが分かった。だが、これをアンケート調査した場合、全く差が見られなかったという。

このほか、同研究室では「視覚」からも木材の快適性を読み解き、木材を見るときは何もない時に比べ、脳の活動が鎮静化するという結果を得た（19、20年）。生理的なリラックス効果を狙い、内装を木質化した鬱病治療の専門病院でも実験し、木材によるリラックス効果を確認している。

宮崎博士は「人類は自然のなかで700万年かけて今を生きる人間になった。現在を取り巻く都市化という環境は、せいぜい200～300年前の出来事だ。我々は、体は自然対応用のまま都市化社会を生きている。コロナ禍によりストレスはさらに拡大している」と語る。

木材が、リラックスやストレス軽減などに大きなアドバンテージを持つ普遍的な素材であることが、同研究室の取り組みにより徐々に科学的に証明されつつある。

"Wood Engineering"
Since 1912

量・質・価格の安定という原点。
国産・輸入材の分け隔てなく、安定供給の担い手の一員として
お客様のニーズを満たすことに努めて参ります。
羽柄材の特殊サイズ・規格部材など、お気軽にお問合せ下さいませ。

"自然との確かな調和"
COMMUNITY PROJECT クロカワ

株式会社 黒川木材工業
米材・欧州材・高耐久保存処理材・構造用小／中断面集成材
新JAS（本社）・ISO9001（晴海工場）取得

本社工場：愛媛県大洲市長浜町拓海 3-8　TEL:0893-52-1200　FAX:0893-52-3065
晴海工場：愛媛県大洲市長浜町 2-11　TEL:0893-52-2630
http://www.kurokawa-lumber.com　e-mail: post@kurokawa-lumber.com

謹賀新年
NZラジアタ松専門製材
梱包材・架設材等

山下木材工業株式会社

〒729-0114 福山市柳津町一丁目9番46号
TEL (084) 934-2721(代)
FAX (084) 934-2724